

現状・課題

南海トラフ地震対策など大規模災害時の対応への関心が高まり、福祉避難所や防災拠点に指定されていない医療施設においても非常用電源の重要性が認識されつつある。

非常用電源確保の現状・課題

- ①グリーンニューディール基金事業（H25～H27）により防災拠点等となる県や市町村等の77施設へ非常用電源となる太陽光発電等が導入されたものの、民間施設への導入は1件にとどまった
- ②福祉避難所や防災拠点に指定されていない医療施設では、県の支援を用いて非常用電源としてライフラインの確保のためにポータブル発電機（1kW～2kWが主流）の導入が進んでいるが、ポータブル発電機の出力は小さい

福祉避難所や防災拠点に指定されていない医療施設において非常用電源の充実や多様化を望む施設がある

太陽光発電を活用した非常用電源導入アンケートの結果

調査対象	245施設（福祉避難所・病院）
回答数	82施設
導入を検討したい	17施設

新エネルギー導入促進の現状・課題

太陽光発電の買取価格の低下や、無制限の出力制約の可能性から、固定価格買取制度を利用した売電事業の新規導入の動きが鈍っている

**今後の再生可能エネルギーの普及には
自家消費・地産地消の取組も必要**

対策

非常用電源となる自家消費型太陽光発電等を導入を支援

- 効果：①福祉避難所や医療施設における防災対応力の向上
②地球温暖化対策への貢献
③自家消費型太陽光発電の導入促進

制度概要

高知県自家消費型太陽光発電設備導入事業費補助金

対象施設：福祉避難所・医療施設
対象経費：太陽光発電及び蓄電池設備の導入に係る経費
補助率：1/3以内
補助上限：5,000千円

<太陽光発電設備 10kW + 蓄電池設備 10kWhの事例>



使用できる機器（1日の発電量28kWh）

【昼間：8時～16時（8時間）】	
テレビ	170W 2台 8時間
ノートパソコン	40W 3台 8時間
携帯電話充電器	5W 20台 6時間
プリンター複合機	320W 1台 8時間
扇風機	60W 20台 8時間
計	16.4kWh+蓄電池10kWh

【夜間：16時～8時（16時間）】	
テレビ	170W 1台 16時間
ノートパソコン	40W 1台 12時間
照明	32W 15灯 12時間
計	9kWh（蓄電池から放電）